

第6回衛星放送協会オリジナル番組アワード

110番組の応募のなかから、計8部門の最優秀賞が決定 大賞は『大相撲いぶし銀列伝』(フジテレビONE)に

一般社団法人衛星放送協会(東京都港区 会長:和崎 信哉)は、本日7月21日(木)に千代田放送会館にて「第6回衛星放送協会オリジナル番組アワード」の授賞式を開催いたしました。

有料・多チャンネル放送の社会的な役割は、こだわりを持った多様なエンターテインメント番組を通して、視聴者の皆様に放送をより楽しんでいただくことです。「衛星放送協会オリジナル番組アワード」は、多チャンネル放送のオリジナル番組制作促進、その認知度向上を目的として2011年に創設しました。今回も会員社からオリジナル番組賞92番組、編成企画賞18企画の計110と多数の応募をいただきました。本日の授賞式では、オリジナル番組賞7部門と編成企画賞の最優秀賞と奨励賞を発表。さらに昨年に引き続き、オリジナル番組賞の最優秀作品のなかから大賞を決定しました。栄えある大賞に輝いたのは『大相撲いぶし銀列伝』(フジテレビONE)です。

今後も、本アワードを通じ、会員各社が制作し放送するコンテンツに一層磨きをかけるとともに、各放送局のこだわりを持ったオリジナル番組や大胆な編成企画をより多くの方々に知っていただける活動を継続してまいります。

<審査概要>

応募作品は、2015年4月1日(水)から2016年3月31日(木)までの間に、一般社団法人衛星放送協会会員社において初めて放送されたもの。会員社から公募された審査委員による第1次審査を行い、オリジナル番組賞7部門計29番組と編成企画賞12企画の、計8部門41作品のノミネート作品を選出。最終審査にて、オリジナル番組賞7部門と編成企画賞の最優秀賞と奨励賞、オリジナル番組賞の最優秀作品のなかから大賞を選出。

<審査委員>

■審査委員長:	吉岡 忍 (ノンフィクション作家)	
■オリジナル番組賞:	石井 彰 (放送作家)	音 好宏 (上智大学文学部新聞学科教授)
	鴨下 信一 (演出家)	小宮山 悟 (野球評論家)
	近藤 孝 (読売新聞東京本社編集局文化部次長)	田中 早苗 (弁護士)
■オリジナル編成企画賞:	安西 浩樹 (株式会社アイキャスト)	尾前 勝 (株式会社ジュピターテレコム)
	後藤 洋平 (朝日新聞東京本社報道局文化くらし報道部)	宮崎 美紀子 (東京中日スポーツ 報道部)
	和光 みき (スカパーJSAT株式会社)	

<特別協賛>

スカパーJSAT株式会社、株式会社ジュピターテレコム

<協賛>

株式会社KADOKAWA

大賞

大相撲いぶし銀列伝

フジテレビONE (株式会社フジテレビジョン)



<講評>吉岡 忍 審査委員長

各分野ベスト作品のなかから選んだ極上の作品。見る視点によって何を選ぶかが変わってくるが、やはり大事なものは「人」なのではないだろうか。どれだけ深い彫りの、魅力的な人物を登場させられるか。本作は、いぶし銀の名力士たちに光を当て、彼ら自身に忘れられない取り組みを語らせる、という企画だが、寺尾関の人柄、穏やかな語り口がじつに魅力的だ。それを引き出したやくみつる氏の話術も巧み。ともに自分の言葉を持っている。特に負けた試合を語る時、いまでも当時の「悔しさ」がにじむようで、寺尾関にしか語り得ない口調。なるほど相撲取りはこうに感じ、考えるのかと納得。相撲ファンはあらためて相撲の見方・見所を教えられた気がするにちがいない。衛星放送が制作・放送する番組は派手ではないかもしれない。規模の大きさを誇るのでもない。だが、こまやかに知恵を絞り、じっくりと人を探し、慎重にテーマを尖らせ、ていねいに作った作品は、けっして埋もれることはない。本作は、その見本のような作品である。

ドラマ番組部門

スペシャルドラマ 洞窟おじさん

NHK BSプレミアム（日本放送協会）

43年もの間、誰にも頼らずにサバイバル生活を続けてきた男の実話をドラマ化することで、“生きる”ことへの価値が揺らいでいる今、その価値をアピールしようと思った。同時に、43年間、各地の山や川を転々とし続けた姿を描くことで、居場所を求めてさまよう現代人の共感を呼び覚まそうとした。

<講評>吉岡 忍 審査委員長

親からの暴力に耐えかね、13歳で家を飛びだし、山奥で一人暮らし。木の実を頬ばり、蛇や熊を捕まえて食い、以来、56歳の現在まで山や町や川原で暮らしてきた男の実話、ということに驚く。原作があるとはいえ、少年役の少年も、その後の成人した男を演じるリリー・フランキーも好演。「人に優しくされたことがねえ」「人が怖い」とつぶやく男だが、その前後のストーリーと描写（日雇いの工事現場や、野生の蘭を採って売るなど、便利にこき使われてきた出来事の数々）がしっかり描かれているので、これらの台詞が浮いていないのもよい。特異な男の人生をたどりながら、その背景にある現代の日本がくっきりと見える。制作者と出演者の視線の深さを感じさせる作品であった。



ドキュメンタリー番組部門

ノンフィクションW ハリウッドを救った歌声
～史上最強のゴーストシンガーと呼ばれた女～

WOWOWプライム（株式会社WOWOW）

『マイ・フェア・レディ』や『ウエスト・サイド物語』など、数々のミュージカル映画には秘密があります。それは、ゴーストシンガーの存在。今回の番組では、かつてタイム誌に“史上最強のゴーストシンガー”と書かれた、マーニ・ニクソンさんを取材。彼女がハリウッドの歴史に遺した足跡を辿りました。

<講評>音 好宏 審査委員

ハリウッドが制作した名作ミュージカルには、歌唱の吹き替え役「ゴーストシンガー」が存在した。そのゴーストシンガーの半生を当人の証言を交えて追ったこのドキュメンタリーは、ハリウッドの秘密に迫るような構成で、見る者をぐいぐい引き込んでいく。ゴーストシンガーの存在は、日本でも映画関係者や一部の映画ファンには知られていたものの、当人が語る映画人生は、ハリウッドのメディア・パワーをひしひしと感じさせるものだ。『ウエスト・サイド物語』のナタリー・ウッド、『マイ・フェア・レディ』のオードリー・ヘプバーン、『王様と私』のデボラ・カーの歌声を一人で歌い分けていたというのも驚きだったが、そのゴーストシンガーのマーニ・ニクソンさんが、85歳になっただけでいまもニューヨークで舞台上に立ち、その歌声を披露しているというのもアメリカン・ショービズならではの姿であろう。思わず往年の名作ミュージカル映画を見たくってしまう秀作ドキュメンタリーである。



中継番組部門

ラグビー ワールドカップ2015 イングランド大会
プールB 南アフリカ vs. 日本

J SPORTS 1（株式会社ジェイ・スポーツ）

ラグビー ワールドカップ2015、日本代表の初戦。優勝候補“世界の巨人”南アフリカにワールドカップ過去1勝の日本代表がどう立ち向かうのか。試合中は国際映像を使用するため、実況・解説のコメンタリーが試合を盛り上げるキーファクター。ファンから信頼度の高いコメンタリー陣に加え元日本代表選手を起用。

<講評>小宮山 悟 審査委員

第6回衛星放送協会オリジナル番組アワードの中継番組部門において、「ラグビーワールドカップ2015 イングランド大会 プールB 南アフリカ vs. 日本」のオリジナル番組賞の受賞に際して、審査員を代表し、一言お祝いを申し上げます。今世紀最大の番狂わせと言っても過言ではないであろう、「奇跡」。ラグビー強豪国の南アフリカに対し、エディ・ジョーンズ ヘッドコーチに鍛えられた日本代表が、最後の最後での大逆転…。それだけでも「ドラマティックな中継」であったのに、輪を掛けて、「神実況」……。恥ずかししながら、試合を生中継で観ていたにもかかわらず、「スクラム組もうぜ!!!」からの逆転トライに再び涙するという、素晴らしい中継…。何も言うことはありません……。歴史的快挙の瞬間を目の当たりにできた事で、充分です。おめでとうございます。番組の評価として、唯一、苦言を呈するならば、現地とスタジオの温度差が、ちょっと…。何はともあれ、おめでとうございます。



©JRFU Photo by H.Nagaoka

バラエティ番組部門

大相撲いぶし銀列伝

大賞

フジテレビONE（株式会社フジテレビジョン）

「記録に残る大横綱」の脇には必ず、「記憶に残る名力士」の存在があった。マスコミの露出は大横綱の記録に集中しがちだが、大横綱の好敵手となり土俵とお茶の間を沸かせたのは「いぶし銀」と呼ばれた名脇役たちの活躍であった事も忘れてはならない。そんな「いぶし銀」たちの土俵人生を描いた。

<講評>鴨下 信一 審査委員

録山親方（今回だけは寺尾関と呼ばせて下さい）も、やくみつるさんも見慣れているはずなのに、顔も言うこともヴィヴィッドで素晴らしい。もうそれだけで番組（特にバラエティ番組）の成否は保証されているようなもので、出色の出来だ。これはもちろん十番勝負の配列がよく考えられているからで、ここではスタッフが腕を見せた。相撲を越えて人生の節目での勝負にこめられた想いがうかがえる深みのある番組になった。しかし、バラエティ番組がいつせいに“過去をふり返る”ようになったのは何故だろう。もう、“昔の映像とからめなければ歌番組は成立しないのか”“特撮シーンのSFX化は限界に来てアナログ復帰しなくなっただのか”“声優が顔を披露しなければ人気は確保出来ないのか”……バラエティ番組はたしかにいまの世相・状況を写す鏡だ。でも突破口を見つけなければ。



情報番組・教養番組部門 球辞苑～野球が100倍面白くなるキーワードたち～「ホームスチール」

NHK BS1（日本放送協会）

この一冊を紐解けば、プロ野球の今がわかる！究極の野球辞典を作るべく、話題の選手やプレイなどから1つのキーワードを抽出し、そのワードを多角的に掘り下げていくプロ野球深堀情報バラエティ「球辞苑」。コアな野球ファンに向けたこれまでにないスポーツ番組をめざし、2014年より開発してきた。

<講評>石井 彰 審査委員

ホームスチールの歴史や隠れたエピソードなどを多角的にかつ深く検証して、とても興味深い番組に仕上がっています。なにより取材・構成の流れが素晴らしく、テンポよく飽きさせないのが見事でした。野村克也氏の証言と高木豊氏の実演は、ホームスチールの本質をズバリと言い当てており、野球ファンだけでなく広く視聴者の関心を引きつけるものでした。「球辞苑」というタイトルに象徴される、製作者たちの「遊び心」が番組全体を貫いており、ゲストの選定もツボにはまっていたとても楽しめました。たんなるオフザケ、安易な作り方の情報系番組が多い中、まさに情報・教養番組の手本といえる番組です。



アニメ番組部門

ツムツム「ツムツム寿司」

Dlife（ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社）

「ツムツム」は、ぬいぐるみやアプリ・ゲームで爆発的な人気を誇る日本で生まれたディズニーコンテンツです。そんなツムツムをノンダイアログの楽しいショートアニメーションで制作することで、世代を超えた世界中のゲストに素敵な夢と笑いを提供することを目指しました。

<講評>田中 早苗 審査委員

「ツムツム」は、ぬいぐるみやアプリ・ゲームで人気を集める日本で生まれたディズニーコンテンツである。本作は、そんなツムツムのショートアニメーション。真夜中、人気のない回転寿司。ぱっと明かりがつき、ころころでかわいいツムたちが、祭囃子に合わせて、踊りながらベルトの上に登場する。登場したかと思うと、ベルトが高速になり、サーキット場と化す。ツムたちがベルト上を猛スピードで走ったり、積み上がった、膨らんだりする。CGアニメーションゆえ、今にも画面から飛び出しそうな臨場感。丁寧な制作ぶりでアニメーションのクオリティの高さを目を見張る。子どもばかりか大人たちも、かわいいキャラクターの大活躍にワクワクして心踊る素晴らしい作品に出来上がっている。



ミニ番組・番組PR部門

スターチャンネル ランキングスポット「傑作クレジット」編

スターチャンネル1 (株式会社スター・チャンネル)

毎月の放送ラインナップの中から、チャンネル独自の視点・評価によるランキングを以て、新しい切り口で視聴者に映画の魅力を紹介する。それにより当月のイチオシ・特集編成から外れている作品の視聴を促し、また視聴者の好奇心を掻き立てる構成、表現で制作を行った。

<講評>近藤 孝 審査委員

映画の予告編やアカデミー賞の授賞式などで披露されるダイジェスト集を見ると、ワクワクドキドキして、映画本編が見たくなるものだ。ランキングスポット「傑作クレジット」編の魅力もそれらに通じている。スタイリッシュでおしゃれな『プリット』『シャレード』、スピード感あふれる『ミッション：インポッシブル』、名匠ソール・バスの『ウエスト・サイド物語』…。どれも素晴らしく、アート作品といっていい出来栄え。もちろん、5つの作品を選んだセンスと3分間にまとめた編集の妙も評価されるべきだろう。そして、なによりクレジットという目のつけどころがいい。監督や俳優でなく、見落とされがちな仕事にスポットを当てたところに、映画愛を感じる。「男を惑わす魔性の一言ベスト3」編や「偉大な撮影監督ベスト3」編も見たくなりました。



「第6回衛星放送協会オリジナル番組アワード」 オリジナル番組賞 奨励賞

情報番組・教養番組部門

銘酒誕生物語スペシャル「十四代」400年の軌跡

WOWOWプライム (株式会社WOWOW)

銘酒誕生に秘められたドラマに迫る「銘酒誕生物語」初のスペシャル版として制作しました。2015年に創業400周年を迎えた高木酒蔵の酒造りの歴史、代々受け継がれてきた蔵人の精神、そして、“日本一の銘酒”とも呼び声高い「十四代」の製造過程を美しい映像とともに丁寧に描きました。

<講評>石井 彰 審査委員

いまや日本一入手困難な酒「十四代」の歴史と製造の舞台裏を丹念に描き出している。7年間にもわたる長期取材と、そのことによる取材対象者との深い信頼関係が、企業秘密とも言える「酒造り」の真髄を的確に映しだして思わすうならされました。さまざまな現場でのインタビューを的確につないでいた編集が特に巧い。データだけでなく、五感を駆使した経験と勤によって生み出された酒の香りが、ほのかにただよってくるような映像でした。「銘酒誕生物語」シリーズの蓄積が、このように深い味わいのある番組を醸造させたことを、高く評価します。



ミニ番組・番組PR部門

our SPORTS! ざっくり100コマフェンシング

NHK BS1 (日本放送協会)

健康寿命の延長。心身の育成。感動の共有。暮らしを豊かにするスポーツの裾野を広げるNHKのスポーツ振興キャンペーン「our SPORTS」。様々な層に向け、多くのフォーマットのミニ番組を開発している。100コマシリーズは、初心者でも分かるルールやウンチクを笑いを交えて紹介。

<講評>田中 早苗 審査委員

たった5分の中に、100コマのスライド画面。フェンシングのルールやウンチクを紹介する。大きく3つのテーマに分け、多角的な視点を提供し、5分でこんなにも情報を伝えることができるのかと、驚くばかり。充実した内容で、隙のない構成。しかもテレビなのに紙芝居風なのが新鮮だ。落語家柳家わさびが画面にコミカルに登場し、彼のナレーションが、小気味よくテンポがよい。回文やコート長さの身長150cmの増田明美さんを35人並べたとか、剣を500グラムの強さで突くのは、プザーや呼び鈴を押すのと同じなど、例え方が滑稽で、しかも分かりやすい。笑いを交える演出が盛りだくさん。目を逸らすことのできない強烈な印象を視聴者にもたらす。見事な出来映えである。



最優秀賞

藤沢周平 新ドラマシリーズ 及び 藤沢周平劇場

時代劇専門チャンネル（日本映画放送株式会社）

よりオリジナル性の高い本格時代劇を広範な視聴者に届けるべく、主演に仲代達矢、檀れい、中村梅雀、北大路欣也を迎え、藤沢周平原作4作品を映像化（うち1作は4K撮影を実施）。BSスカパー！/時代劇専門チャンネル/BSフジ/スカパー！4K総合とチャンネル横断的に放送した大型企画。さらに過去の藤沢原作TV作品も連日放送。

<講評>宮崎 美紀子 審査委員

時代劇専門チャンネルが2011年から取り組んできたオリジナル時代劇は「藤沢周平新ドラマシリーズ」で大きく開花した。一挙四作という規模の大きさもさることながら、これまでの時代劇専門チャンネル+スカパー！にBSフジが加わることで「時代劇の輪」がさらに広がった。仲代達矢主演の大作「果し合い」を間口が広いBSスカパー！でお披露目し、時代劇専門チャンネルと縁が深い井上昭監督作品「遅いしあわせ」「冬の日」を同チャンネルで、「剣客商売」でフジテレビ系の時代劇の顔になった北大路欣也主演作「三屋清左衛門残日録」をBSフジで初出しするという見せ方も巧みだった。藤沢作品は今後、池波正太郎に続くチャンネルの看板になっていくであろう。時代劇の灯を守りたいという情熱が視聴者に新しい楽しみを与え、日本の文化を守り、チャンネルの未来を拓いた。幸福な結末を自らの手でたぐり寄せた長年の努力に最優秀賞を贈る。



藤沢周平 © 「果し合い」(C)2015時代劇専門チャンネル/スカパー！/松竹
「遅いしあわせ」(C)2015時代劇専門チャンネル/松竹
「冬の日」(C)2015時代劇専門チャンネル/松竹
「三屋清左衛門残日録」(C)2016時代劇専門チャンネル/BSフジ/東映

「第6回衛星放送協会オリジナル番組アワード」 オリジナル編成企画賞 奨励賞

奨励賞

私たちがプロポーズされないのには、101の理由があったな

女性チャンネル♪LaLa TV（ジュピターエンタテインメント株式会社）

ジェーン・スー原作の「私たちがプロポーズされないのには、101の理由があったな」を、LaLa TV開局15周年記念ドラマとして101エピソードを映像化。話題の俳優、クリエイター陣によるドラマ制作、放送、配信、イベント、パッケージ化など多角的展開が可能なチャンネルイメージを構築。

<講評>後藤 洋平 審査委員

最初に驚かされたのは、その豪華なキャストだった。相武紗季、濱田岳、佐藤二朗、城田優、貫地谷しほり、鈴木砂羽、小池栄子、市川実和子、佐々木希、菜々緒、夏菜……。CSの番組に出演する顔ぶれとしては間違いなく異例だ。「出演」だけではない。鈴木砂羽の監督デビューも話題になったが、福田雄一、川村泰祐らの演出陣や、実力派の脚本家たちの名前を目にして、この作品が特別なものであると確信させられた。これだけ多くの有力な人々を巻き込んだ企画力を、全審査員が高く評価した。制作した関係者の努力や奔走ぶりを想像すると、身が引き締まり、脱帽する思いだ。企画部門ではあるが、もちろん作品そのもののクオリティーが非常に高かったことにも言及したい。不可能を可能にした数々のタイアップと、視聴者を引き込む内容を成立させることの両立。このドラマが高い評価を受けたのには、101とは言わないまでも、数多くの理由があった……ということである。



「第6回衛星放送協会オリジナル番組アワード」特設HP <http://www.eiseihoso.org/award/2016>

■本件に関するお問い合わせ

株式会社ユース・プランニングセンター

電話: 03-3406-3411 FAX: 03-3499-0958

三岩 (d-miwa@ypcpr.com/090-7900-7481)

舘林 (k-tatebayashi@ypcpr.com/080-8422-0967)

■その他のお問い合わせ

一般社団法人衛星放送協会

電話: 03-6441-0550

崎山 (sakiyama@eiseihoso.org)